



2023年度

# 昭和大学医学部 一般I期 入試問題

2023年 2月4日実施

## YMS「直前講習 昭和I最終」から 入試問題がズバリ大的中!!

### 実際の入試問題—解答速報より

#### 4 耳の構造

問1	アー耳殻 エーリンパ液 キー大脳の聴覚中枢 (大脳, 大脳皮質)	イー鼓膜 オー聴細胞	ウー耳小骨 カー聴神経
----	--	---------------	----------------

脳◎の部位

問2 うずまき管の入り口から奥にいき、幅が広がった部位。

問3 表面積が大きくなり、刺激を受容できる領域が広がる。

問4 周波数の大きい高い音は、うずまき管の入口に近く、基底膜の幅が狭い領域を、周波数の小さい低い音は、うずまき管の入口から遠く、基底膜の幅が広い領域を振動させるので、その違いにより音の高低を聞き分ける。(100字以内)

問5 (1) X—物理 (機械), Y—電気 ◎音の高低の識別

(2) 聴細胞の感覚毛がおおい膜に接触し、屈曲する過程。

問6 (1) 感音難聴 ◎感音難聴と伝音難聴について

(2) ①, ②, ⑤

**「耳  
(聴覚器)」  
が大的中!!**

### YMS 2023年度 直前対策「昭和大学I期最終」—解答

4 問1	ア 鼓膜 エ 前庭階 キ 感覚毛	イ 卵円窓 オ 基底膜 ク 聴神経	ウ うずまき管 カ 聴細胞
問2	a 外耳道 d 前庭	b 鼓膜 e うずまき管	c 半規管 f 耳管 (ユースタキ管)

問3 つち骨, きぬた骨, あぶみ骨

問4 c

問5 20~20,000 (Hz)

問6 周波数の高低で振動する基底膜の位置が異なる。

問7 鼓膜の振動を増幅できなくなり、音が伝わる過程に障害が生じ、伝音難聴になる。

### テキスト抜粋

【頻出分野】：(頻度：★★★…高   ★★☆…中   ★☆☆…低)

①「動物の環境応答」・「動物の体内環境」……………★★★

☞ 動物関連が頻出で、ほとんど毎年出題されている！  
ただし、2017のように出ないこともある。

☞ 強いて1つ挙げるならば、昭和I期では、耳(聴覚器)が出ていないので、出る可能性がある。なお、昭和II期では、2013、2016で耳が出題されている。

**頻出分野も  
大的中!**